

岩大生と共同で研究

生出小児童が成果発表

生出小学校実践区教育振興大会（主催・生出地区住みよい環境推進協議会、盛岡市立生出小学校）が20日、盛岡市玉山区のユートランド姫神で開かれた。同小児童会保健委員会の児童が1年間の研究成果を発表した。

6年生は岩手大学の学生たちと研究テーマを見つけ、一緒に調査や課題について取り組んだ。三上英昭君は「ニジマスと生出川について」、島山のぞみさんは「授粉つて不思議」、三浦彩乃さんは「そばについて」、櫻桃花さんについて、砂子田翔大君は「糖度とおいしさ」、菅原あかねさんが「ミニティ（ミニトマト）のこれから」、中居幸希君は「産直いずみ会の野菜調べから見た生出の開拓」、竹林聖純君は「日本人主食をくい止めた」。学生と2人でスライドを使ってそれぞれ発表した。

ニジマス、グレソンの研究テーマをそろえるとバランスの取れた食事になる。「生出定食」として紹介された。三上君は大切に育てたニジマスが調理されることに耐えられないとして、ニジマスの絵を描いてお膳に乗せていた。

8人のうち三浦さんは発表当日になって発熱し、一緒に研究してきた岩大生の倉田沙季さんに託して悔しそつに泣く泣く帰宅したという。



生出小6年生の総合学習発表会

あるか流域の水質調査を実施。COD（化学的酸素要求量）はほとんどが1で非常にきれいな水であること、pH（水素イオン濃度）は7・5の弱アルカリ性であったことを紹介。「生出川はニジマスがすめる環境ということが分かった」と発表した。

土地が酸性であるのに生出川は弱アルカリ性であるのか、非常に不思議だとする質問が寄せられていた。課題や疑問にこれからも取り組んでいくと三上君は話していた。

三上君は生出川がニジマスが住める環境に川合流点までの流域で